

## 『小学校生活を振り返って』

---

私たちは実子がいなかったことから、わたしが児童相談所に行って、里親制度の話聞き、登録することを希望しました。実は、妻は日々の生活でそれどころではなかったのですが環境が変わったこともあり、私が望むのなら自分もやってみようと受入れてくれました。（里親登録をしました。）

その後、小学生の A 君を我が家に受け入れることが決まり、担当の児童相談所の職員さんと学校を訪問しました。

これまで夫婦互いの理解が取れば、時間を好きなように使っていました。委託後は A 君のことを考えなくてはならなくなりました。当たり前のことですが・・・。

A 君は、年齢的に学童保育を利用できる年代だったので、利用することにしました。でもお迎え時間は『18時』です。仕事を終えてからのお迎えは慌ただしく、家に帰り、食事、ふろ、就寝の生活にははっきり言って疲れしました。また、お互いが馴染むのには随分かかったと思います。

ですからいっしょに旅行したことは楽しかったです。委託後は日々の生活で子どもも、私たちもお互い精一杯でしたが、互いが落ち着いてきて旅行をしようという気になってきたころだったと思います。A 君も楽しいこと初めてのことを経験し、とてもうれしそうでした。私たち夫婦もそんな時間が楽しく、夫婦だけなら行くことがなかったらろうと振り返ります。

A 君との生活で大変なことは、ちょっとしたことが、いろいろありました。妻は「こだわりが強い子」という印象を感じていたようで、食べ物や飲み物の味、洋服のデザインや色などあれこれ考えすぎてしまうことがありました。

こんなこともありました。A 君は我が家で暮らすことが決まり学校を転校しました。ちょうどその時期、学校では『学習発表会』の準備が進んでいました。転校してまだ日が浅い A 君にも出し物のセリフが一つか、二つ割り当てられていました。

迎えた発表会当日、登校時間になってもなんだか様子がおかしく・・・。なかなか学校に行くことができませんでした。妻は学年の発表のことを心配し、「あのセリフを誰か代わりに言ってもらわなければ・・・」と学校に連絡を入れました。私（たち）は、心の中で休んでもそれは仕方がないこととっていました。

ところが、担任の先生は「今から行きます。」と我が家まで足を運ばれ、泣きわめく A 君をしばらく説得し、A 君の手を引き学校に連れて行ってくださいました。

結局のところ学年の発表には参加できなかったけれど、最後の全校生徒の合唱に参加することができました。

その後、学年末まで欠席はなしで皆勤賞をもらうことができました。小学校時代は2日ほどの欠席だけで元気に過ごすことができました。

私たちは、夫婦ともにゆかりがない地で住んでいましたので、これまで学校やご近所と関わりの薄い生活でしたが、A君を迎えたことによって関わることができ、少しですが地域を知ることができたと思います。

6年生2学期の個人懇談で担任の先生から、「中学校はどこへ行くことになるのか？」と聞かれました。委託をされた時から、長い期間預かることが見込まれていたもので少し驚きましたが、先生方は詳しいことは知られず卒業したらどうなるのだろうと気にかかっておられたようです。「地元の中学校に・・・」と返事を伝えると、ほっとされた様子でした。年が明けて、Aくんが宿題のドリルを学校に忘れたので取りに伺いました。担任の先生とは別の先生から、「A君が地元中学へいくことが、嬉しいです。毎日元気に過ごしていますよ。」と声をかけしてくださいました。そう言っていたことがなんだかとても嬉しかったです。

A君との生活を思い返してみれば、イライラしたり、心配したり、楽しかったり……。いろんなことがありましたが、子どもってアツという間に成長しているなと思っています。

小学校の高学年くらいから『家族の一員としてできることをお手伝いしましょう』なんてこと言われると、妻はことば通りに受け止めて「そうだよなあ。少しはできるようにならんと。やってもらわんと。」と考え、何度となく声かけしていました。けれどもなかなか定着せず、諦めて自分でしたりしていました。ところが最近A君も、気分がむけばこちらから何も言わなくてもやってくれるようになりました。少しずつですが、成長しているようです。

それでもA君はまだまだやってもらうことに安心感や、うれしい気持ちがあるようなので、しばらくはこんな調子でいいかなあと思ったりもします。

きっと、自分自身でやらなければならない時がきたら、自分でやるでしょう。それまでは、いっしょにごはんを食べ、洗濯したり、ともに生活していくことでしょうか。A君も気分によって、「ねえねえ」って時もあれば、「うざいなあ！」って感じのときもあり、こちらも「なにになに？」や「くそ生意気な！」と感じる気持ちもその時々なのですが、そんなことの繰り返して暮らしていくことで良いように思います。